

中濃農林事務所の普及活動状況

令和2年10月31日現在

今月の重点活動

■農業大学校連携 先進農家派遣学習支援

農業大学校の学生は、通常の授業・実習の他に、インターンシップ制度である先進農家派遣学習を毎年この時期に行っている。

本年は、1年生3名が9月下旬から1週間、2年生3名が10月上旬から1か月間、管内の園芸、畜産農家において実習に取り組んだ。2年生の派遣学習の初日には出発式を行い、学生3名が受入農家を前に抱負を述べ、農家からは実習生へ期待の言葉が贈られた。派遣学習期間中は、農業大学校の指導職員と農業普及課が連携して受入農家を訪問し、進捗状況のほか学生の学習態度などについて生産者に確認を行った。

農業普及課では今後も農業大学校と連携し、派遣学習の支援を行っていく。



【出発式の様子】

新たなブランドづくり

■さつまいも 収穫開始・収量調査等の実施

J Aめぐみの「さつまいも生産組合」の収穫が、9月末から始まった。さつまいもは各生産者において蔓切り、収穫（手掘りや機械掘り）、規格選別等を経て出荷されている。

農業普及課では、各生産者圃場において収量、品質及び虫害調査等を実施し、今年度は薬剤防除や適期収穫を行ったことで、昨年見られた病害虫の被害が軽減したと感じられた。一方で、新たな病害や収量の差など解決すべき課題も見えてきた。

今後は次年度の栽培に向けて、それらの課題を解決できるよう研修会を行うとともに、販路の確保や栽培面積の拡大等、産地形成に向けて関係機関等と十分に話し合いや連携を行いながら、支援を継続していく。



【収量調査の様子】

(地域支援係)

■花き 県育成キンセンカ「かれん」シリーズ試験栽培苗の開花・秋出荷

本県が育成したキンセンカ（カレンジュラ）「かれん」の種子系を管内鉢花生産者が試験栽培し、10月になって8月に播種された3品種（レモンスフレ、レモンパンナコッタ、オレンジパンナコッタ）の開花が始まり、今後順次出荷される。

この新しい「かれん」シリーズは、これまでのキンセンカのイメージを一新し、寒さや病気に強く、一重咲で花壇や寄せ植えに最適な品種として期待されている。10月13日には定期巡回で訪れた農業技術センター研究員、農業経営課革新支援専門員とともに栽培支援を行うとともに、来春出荷用に今月播種された6品種の生育状況を確認した。

農業普及課では、今後も県農業経営課、研究機関と協力して「かれん」シリーズの現地栽培、販売を支援していく。



【開花した「かれん」】

(地域支援係)

多様な担い手づくり

■ 円空さといも 瀬尻小学校の総合学習を支援

関市立瀬尻小学校では、3年生が総合学習の授業で、中濃地域特産の円空さといもについて、ダツかき（芽かき）、除草、追肥などの作業を体験学習している。

10月16日に、生産者、JA、農業普及課の担当者が講師となり、円空さといもの概要や栽培方法、販売などについて室内で説明を行った。児童らは、メモを取るなど熱心に話を聞いて理解を深めた。

11月には収穫作業を予定し、農業普及課では今後も継続して学習を支援していく。



【授業の様子】

（地域支援係）

売れるブランドづくり

■ 水稻種子 水稻種子「ハツシモ岐阜SL」の刈取り始まる

管内では、「あきさかり」（1.2ha）、「あさひの夢」（6.9ha）、「モチミノリ」（2.2ha）、「ハツシモ岐阜SL」（41.0ha）、「みのにしき」（0.7ha）の水稻種子を約52haのほ場で生産している。

※カッコ内は生産予定面積（原種含む）

農業普及課では、育苗期から栽培管理の指導を行うとともに、出穂期や糊熟期には種子条例に基づくほ場審査を実施するなど優良種子生産を支援してきた。9月に「あきさかり」の刈取りが始まり、その後、台風や降雨があったものの大きな影響はなく、10月13日からは作付面積が最も多い「ハツシモ岐阜SL」の刈取りが始まった。

今後は、収穫された種子の生産物審査（発芽試験）を農業普及課で実施し、合格した種子はJAが精選・種子検査した後、県内各地の水稻産地へ出荷される。

（地域支援係）



【刈取り作業の様子】

■ ゆず 上之保ゆず研究会（仮称）の会員募集を実施

農業普及課を含む「かみのほゆず」産地戦略会議は、昨年度に上之保地区の「ゆず産地方針（産地ビジョン）」を作成し、今年度は目標達成のための活動を展開している。

活動の一つとして、上之保ゆず研究会（仮称）の発足に向けた会員募集を9月末を期限に郵送で実施した。ゆず生産者間の情報交換を図るとともに栽培技術の向上と安定生産を実現し、将来に渡って産地を継続していくことを目的に、上之保地区で中核となるゆず生産者44名に声をかけ、13名から入会の返答が得られた。

今後農業普及課では、上之保ゆず研究会（仮称）を発足させ、会員に対して重点指導を行う。これを通じて地区の模範となる生産者を育成し、停滞しているゆず出荷量の増大を図っていく。



【研究会申込用紙】

（地域支援係）

■ 円空さといも **岐阜大学と現地圃場調査を実施**

関市を中心に中濃地域で栽培される円空さといもは、丸い形と「もっちり」した粘りが特徴の特産作物で、11月上旬から出荷が開始される。

9月下旬に葉柄が倒れる症状が発生したことから、10月13日に病害が発生した現地圃場4か所を岐阜大学の教授、農業技術センターの研究者と連携して現地調査を実施した。

今後、農業普及課ではJAと連携して病害対策を作成し、中濃里芋生産組合員に周知して次年度の安定生産に向けた支援を行っていく。



【圃場調査の様子】

(地域支援係)